

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市青年文化センター
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和2年度 24,961人（前年度比 9%） ※大規模改修のため令和2年10月5日より休館 令和元年度 264,922人 平成30年度 319,721人
	《事業》 施設の管理運営に加え、ホールのバックヤードツアーや、開館30周年記念展の実施等、青年文化センター活性化事業を行っている。また、指定管理者の事業部門と連携し、音楽、演劇、ダンス等の公演及び普及啓発事業を主催している。
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 300,566千円 (352,937千円) ・ その他市が負担した費用 533,970千円 (20,302千円) 《収入》 ・ 使用料収入 13,554千円 (107,433千円) ・ その他収入 8,986千円 (14,536千円)
	()は前年度決算額
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 「利用者アンケート」の実施（令和2年9月） ・ 施設利用者に利用案内用紙を配布し満足度を調査・対応（通年） ・ 「意見箱」に寄せられた意見・要望等に対する回答を掲示（通年）

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設運営上の基本方針について、職員全体会議等で日頃から職員間で共有しているほか、受付窓口やホームページにより利用者への周知を行っている。 その他、休館日の縮減など利用者増加のための取り組みの継続、地域と連携した事業実施による青少年の活動支援、文化活動団体への情報発信支援などを通じて、施設目的の達成に向けて適切に運営している。	27/27
II 施設の運営管理体制	仕様書や事業計画書の内容に沿った適切な人員配置、指定管理料の執行がなされており、概ね良好である。個人情報を取り扱う際に必要な対策を講じているとともに、職員の意識向上を図る取り組みも行っている。職員と各委託業者がそれぞれ施設の点検を行い事故防止に努めており、過去の事故内容等の記録も事務室内で保管・共有されている。また、防災訓練はテロ等外部からの脅威も想定して行うなど、災害等発生時の対応体制が確立されており、適切な運営管理体制が敷かれている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	利用者が施設を快適に利用できるよう、定期的な清掃や外構の植栽管理などを通じて衛生管理、美観維持に取り組んでいる。また、日頃から施設・設備の確認を行い、発見された不具合等は迅速に対応している。 備品については、設置場所や保存状態等を網羅したデータベースを作成するなど、適切に管理されている。	24/24
IV サービスの質の向上	「接遇に関する対応マニュアル」が職場内で共有されており、職員のマナー向上のための取組みが適切になされている。年1回実施している利用者アンケートのほか、意見箱の設置や施設利用者からの状況報告を通じて利用者の意見を伺い、可能なものから迅速に対応している。また、利用促進のための取組みとして、様々な媒体を活用した情報発信を不断に行っている。	28/28

V 施設固有の基準	<p>施設の休館日を活用して修繕を実施するなど、利用者の利便性向上を図る取組みを継続して行っている。また、使用許可に係る事務や再委託業務の手続き等について、協定書や仕様書に基づき概ね適切に行われている。</p> <p>《加点点評価特記事項》コロナ禍において、文化芸術活動が難しくなる中でも、関係団体と協力しながら、文化イベント再開に向けたモデル事業の構築に務めるなど施設の活性化を図る取り組みが効果的に行われている。</p> <p>《減点点評価特記事項》有料駐車場の使用料徴収事務について、一部仕様書と異なる事務が行われていたものについては適切な事務の遂行に努められたい。</p>	31/31
------------------	--	-------

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》	
<p>施設運営上の基本方針は職員会議等により共有し、個人情報保護や情報セキュリティポリシー等を遵守しながら協定書等に基づき適切な業務執行に努めた。これまで経験のない新型コロナウイルス感染症への対応については、仙台市と協議を重ね迅速に対応するとともに、施設の安全利用に取組み重大事故ゼロを継続した。職員各自が接遇マニュアルによる不断の点検や、利用者から寄せられた要望や改善点への迅速な対応、施設ホームページやSNSによる情報発信に取り組み、サービスの質や利便性、施設のブランドイメージの向上に努めた。コロナ禍の影響や、改修工事のための休館による例年にない利用実績ながらも利用者アンケート結果では高い評価が継続して得られた。大規模改修工事に向け所管課と連携し、仙台市・設計事務所・施工業者との調整に関わるなど積極的に参画した。改修後の変更点について、広報等の充実により利用者への情報発信が必要と考えている。事業では、館の多様な特長を活かし各種展開の計画を行った。開館30周年記念イベント「パフォーマンスフェスティバル」はコロナ禍の影響で中止となるも次年度に代替催事の開催に向けた準備業務等に他課との協働により取り組んでいる。楽都仙台の拠点として、クラシックエール仙台でのチケット販売や当日運営協力を行った。館の魅力的な場の活用事業として、「事業でみる開館30周年記念展」を実施しクラシックエール仙台開催期間を含めて実施した。文化情報にふれる機会や出会いを創る事業では、当財団所蔵の書籍文庫を継続設置し劇場法に謳われているひろばとしての館の機能を高めた。文化庁補助金事業の青少年対象のオーケストラ鑑賞会は、コロナ感染症防止対策として学校に訪問し演奏する従来とは異なる形式により継続実施した。地域連携では旭ヶ丘地区において良好な関係を育み、協働事業に継続的に取り組むなど成果を挙げている。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>職員全体会議や訓練等による職員間の情報共有及び啓発に努めており、事故や災害を含めた様々な事象に対応できる体制が構築されている。また、施設の維持管理について、利用者が施設を快適かつ安心・安全に利用できるよう、衛生管理、美観維持が徹底されているとともに、施設内の不具合対応などが迅速かつ適正に対応されている。サービスの質を向上させる取組みとして、接遇に関するマニュアルが職員間で共有され、適切に活かされている。コロナ禍による影響や、10月から始まった大規模改修工事により、施設が休館となり利用実績は例年に比べ極端に減少したが、施設利用者アンケートにおける「総合的な満足度」の項目で「とても満足」「満足」の回答の合計が全体の81.4%に上ったことは、日頃からの適切な対応及びサービス向上に向けた取り組みを行っている成果であると認められる。</p> <p>事業企画や運営においては、施設の特性を最大限に活用した大規模な自主事業の実施や、「楽都」を代表する音楽イベントである仙台国際音楽コンクール、仙台クラシックフェスティバル代替事業であるクラシックエール仙台などの運営支援、及び、「楽都」のシンボルである仙台フィルハーモニー管弦楽団をはじめとした音楽団体の運営支援など、施設の魅力を存分に活用し、本市の文化振興に大いに貢献したと認められる。例年実施している青少年向けの大規模イベントはコロナ禍により、学校訪問型という異なる形式で実施することとなったが、文化活動が難しい状況でも、継続して事業を実施できたことは、当該施設の「青年の文化活動及び交流の場を提供し、もって市民の文化及び教養の向上に資するため」という設置目的を体現しており、意義深いものと認められる。</p> <p>以上より、令和2年度における当該指定管理者の青年文化センター管理運営業務については、概ね良好であったものと評価する。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>コロナ対策として、空調や換気設備の運用見直しを行ったほか、貸出し施設の45か所について換気に関するデータを取りまとめ、施設ホームページにデータを公開するなど、利用者の安心・安全な館利用のための参考となる他、館の安全性について、対外的に説明する資料として高い効果が見込まれる。仙台フィルの定期演奏会に向けて、コロナ対策について仙台フィル事務局と共同で勉強会を行い、演奏会の円滑な運営の一助となった。</p>

◎ 評価担当課（施設所管課）：文化観光局文化スポーツ部文化振興課